

2021 年度実施概要

学校名

糸満市立高嶺中学校

採択活動名

海人科 ～海人が活躍した糸満の海を学ぼう～

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 糸満の漁業の歴史と漁具、海を中心とした昔のくらしを見てみよう	1 学年	海人科
2. 帆掛けサバニ体験、ロープワークから糸満の伝統的な漁業を考えよう	1 学年	海人科
3. 学習した事を伝えよう ～北海道網走市とオンライン交流授業～	2 学年	海人科
4. 大度海岸の環境を調査し、環境保全のためにできる事を考えよう	2 学年	海人科
5. 塩づくり体験・海ブドウ収穫体験を通して、糸満の魅力を考えよう	2 学年	海人科

取り組みの概要

今年度は各学年のテーマ（1 学年「地域」、2 学年「環境」、3 学年「持続可能」）を設定した。中学校 3 年間の海洋教育で学んだ事を、これからの糸満市のまちづくりにつなげていけるよう、持続可能な開発目標（SDGs）と関連させた取組を計画し、実施する事が出来た。

3 学年の取組については、県内の新型コロナウイルス感染症拡大防止による休校が続いたため実施することが出来なかった。

【1 学年について】

1 学年では、糸満の漁業の歴史と海を中心とした昔のくらしについて、NPO 法人ハマスーキが運営している糸満海人工場で体験学習を行った。さまざまな漁具やサバニ、漁師のくらしについて講話を聴き糸満の漁業の歴史について理解を深めることが出来た。また、同施設にある古民家を見学し、糸満の伝統的な家のつくりや、自然環境を活かした家の工夫について学習することが出来た。



伝統的なサバニについて学ぶ



伝統的な家の「工夫」を調べる

1学年の帆掛けサバニ乗船体験では帆掛けサバニ振興会の協力を得て実施することが出来た。ほとんどの生徒が初めての乗船体験となり、サバニについて理解を深める非常に貴重な体験となった。また、乗船を待つ間にロープワーク実習も行いさまざまな結び方を学習することが出来た。海人工房での学習、帆掛けサバニ乗船体験などを通して、糸満を支えた海について理解を深めることが出来た。疑問に思った事や考えた事などについて探究に取り組む事が出来た。



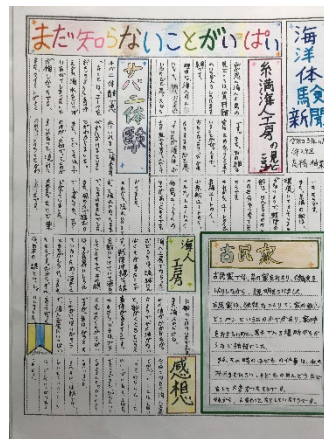
ロープワーク体験の様子①



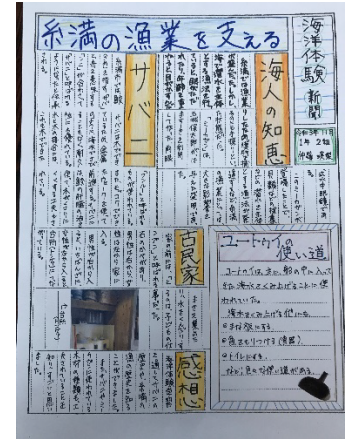
ロープワーク体験の様子②



帆掛けサバニ乗船体験



体験のまとめ新聞①



体験のまとめ新聞②

【2学年について】

2学年では、北海道網走第二中学校と連携したオンライン授業を実施することが出来た。本校では海ブドウやサンゴについて紹介した。網走第二中学校からは流氷について発表して頂いた。オンラインの交流を通じて、海の違いについて理解を深める機会となった。



オンライン交流会の様子



オンライン交流会 県内新聞に掲載

2 学年では昨年に引き続き、大度海岸の環境調査を行った。魚や貝、藻、ウニ、カニなどの生物に関する調査とゴミの調査を行い、調査した結果を昨年と比較する事が出来た。ゴミの量は減っていたが、その理由は何か？など新たな問いが生まれて探究活動につながった。



海岸調査の様子 ①



海岸調査の様子 ②



海岸調査の様子 ③



海岸調査の様子 ④ (軽石)



海岸の調査の様子 ⑤



漂着ゴミの分類の様子

2 学年では、海ブドウ収穫体験・塩作り体験も行った。

特に、海ブドウの収穫体験を通して、糸満市の新たな観光産業の一つとしてもっとアピールするにはどのような取組が必要か？などについて探究活動を行うことが出来た。また、塩づくりでは持続可能な産業として、将来に活かすにはどうしたらよいかなどの探究につながった。



海水を煮詰めて塩を取り出す体験



海ブドウ収穫体験の様子